

徳島県立総合看護学校
令和6年度第2回 学校運営委員会 議事録

1 日時

令和7年2月4日（火） 午後2時50分～午後4時

2 場所

徳島県立総合看護学校 会議室

3 出席者

(1) 委員

頭師委員長、齋藤委員、森委員、葉久委員、三宅委員、森口委員

(2) 委員以外

・委託業務管理責任者

山本委託業務管理責任者（徳島県立総合看護学校）

・オブザーバー

多田課長補佐（徳島県医療政策課）、中村事務局長（徳島県医師会）

・事務局（徳島県立総合看護学校）

岡山副校長兼事務長、藍原副校長、水田教頭

・補助者

（徳島県医師会事務局）

大西次長、田上課長補佐、玉木係長

（徳島県立総合看護学校）

総務担当 矢口係長、氏橋係長、遠藤事務主任

教務担当 中野第一看護学科長、斉藤第二看護学科長、小川准看護学科長

4 次第

(1) 学校長あいさつ （略）

(2) 議事

ア 学校運営状況等について

イ 学校関係者評価について

5 議事

(1) 学校運営状況等について

ア 資料説明

・岡山副校長兼事務長から、学校運営状況等について説明。

・藍原副校長から、准看護学科の出願者確保対策について説明。

イ 質疑・意見等（要旨）

・三宅委員

第一看護学科一般入学試験の出願者数が、令和3年度84名に比べて、令和7年度は42名と半減しているが、何か要因があるのか。

・頭師委員長

第一看護学科は高校新卒者が多いので、高校生の人数が減っていることや、大

学志向が高まっていることが考えられる。

- ・ 水田教頭

令和4年度入学試験から募集人員を変更し、本校を希望する学生を早期に確保するため、推薦入学試験の募集人員を16名から25名に増やした。これにより一般入学試験の募集人員が24名から15名に減ったことも大きな要因と考えている。

- ・ 葉久委員

看護師を志望する学生は結構おられて、大学を選ぶか専門学校を選ぶかというところのお話だが、高校への働きかけや、高校生の意見の吸い上げをされているのか。

- ・ 岡山副校長兼事務長

主に本校学生の出身校を対象として、職員が高校を訪問しており、進路担当教員から本校を希望している学生の有無の聞き取りなどを行っている。担当教員からは、大学志向が強くなっていること、看護師を志す学生は小さい頃から憧れを持って目指している者が多いという話があった。その中で本校を選んでいただくために、厳しいカリキュラムではあるが3年で充実した学びが出来ることをPRしている。

- ・ 頭師委員長

看護師を希望する学生は、過去から一定数存在する。学生の大学志向が強まっている中でも、各高校から優秀な学生を推薦していただいている。

- ・ 葉久委員

大学で4年かかるところを3年で学べることは大きなアピールポイントだが、逆に3年で学ぶのは大変なのではとマイナスに捉えられることもあるのではないかと。アピールの仕方が大切だと思う。

- ・ 頭師委員長

3年で学べることはメリットのひとつと考えている。早く看護師になれることから本校を選んだという学生もいる。

- ・ 森委員

看護師が年々減少している中で、看護師を志す社会人は貴重だと思うが、第一看護学科社会人入学試験の受験者8名のうち合格が1名だけなのは、社会人では合格が難しい状況だったということか。

- ・ 頭師委員長

今回初めて社会人入学試験を実施し、募集人員は推薦と社会人を合わせて25名とした。これまでも推薦入学試験により優秀な学生25名を確保できている中、社会人にも門戸を開いていくということで、小論文や面接試験において、社会人経験に基づく論理的思考能力や人物評価を行い、推薦の学生と比べても遜色ない一定のレベルを満たしているかを評価したが、結果として1名だけの合格となった。

・ 森口委員

第一看護学科一般入学試験の補欠合格者数が、令和7年度は例年より少ない6名となっている。辞退者は毎年10名を超えている状況であり、定員割れが懸念されると考えるが、補欠合格者を6名とした理由を教えてください。

・ 頭師委員長

受験者数が減少した中で評価を行った。評価基準を引き上げたり問題の難易度を上げたりはしていないが、結果として、可否を判定する一定基準を満たした受験者が31名であった。

・ 森口委員

辞退者がどれだけ出るかは予測できない。受験者数が減る中で、いかに定員割れを起こさないようにするか考えていく必要があると思う。

・ 齋藤委員

第一看護学科社会人入学試験の不合格者7名の中で、准看護学科を受験した人はいるのか。

・ 藍原副校長

第一看護学科と准看護学科の同時出願者が何名かいるので、その中にいるかもしれない。

・ 齋藤委員

第一看護学科よりは長くかかるが、准看護学科から始めて看護師になっていたけると有りがたいと思う。

・ 三宅委員

第一看護学科で上那賀病院に就職予定の方が1名いらっしゃる。医師は当然ながら、看護師も足りなくて困っている状況なので、非常に良かったと思う。この学生は地元の方か。

・ 水田教頭

地元での就職を希望している学生である。

・ 三宅委員

こういう方がロールモデルとなって、看護師が不足している地域の出身学生が、一人でも多く地元で就職するようになると助かる。一人でも非常な戦力になると思う。大規模な病院での勤務とは異なるところもあると思うが、看護師として勤務する中で、自分がやりたい看護について、研修等の機会は確保されているのだろうか。

・ 水田教頭

看護協会でも新人をフォローする研修を実施しており、看護協会から卒業予定学生に対して説明していただいている。教員からも、まずは看護協会会員になって、研修などの制度を活用しながら、生涯学びを積み重ねるよう指導している。また、様々なセミナーや研修をオンラインで受講できるので、どこにいても学べる環境があると思う。

- ・ 葉久委員

地元自治体に対して地元を挙げての支援を依頼するのも一つの方法ではないか。研修サポートや経済的支援などがあれば、地元に戻って働きやすいと思う。医師でいうところの地域枠のような考え方もあるのではないかな。

- ・ 森口委員

三宅委員、葉久委員の意見に同感である。今年度、那賀高校から推薦入学試験受験者が1名いらっしやる。地元から推薦していただける環境があるならば、地域枠のような考え方の可能性を探ってみてもいいのではないかな。

- ・ 頭師委員長

中山間地域の医療確保という観点も含めて、高校訪問の際に学校のアピールをしっかりと行っていきたい。

- ・ 森口委員

県の看護師確保策として、県外出身者が県内へき地に所在する公立医療機関に就職した場合に奨学金返還を支援する制度を創設したが、ハードルが高い面がある。地元で就職したい人の方が定着しやすいと思う。

- ・ 山本委託業務管理責任者

准看護学科の出願者数が減少しているのは、18歳人口が減っているのやむをえない。准看護学科出願者の年齢構成を見ると、40代以上の割合が高くなってきている。学生の平均年齢が上がっているが、高齢化社会なので、これからは年齢の高い人が高齢者のケアをする時代だと思う。

- ・ 森口委員

一度社会に出て働いた方が、途中で自分の進路選択をする中で、准看護学科のような受け皿は重要だと思う。第一看護学科社会人入学試験で学科試験を一部免除して面接重視としたように、准看護学科もそのような形で入りやすくして、入学後のサポートは大変になると思うが、受け皿としてよろしく願いたい。

- ・ 頭師委員長

准看護学科入学試験については、具体的な方策を詰めて来年度の実施につなげたいと考えている。

(2) 学校関係者評価について

ア 資料説明

- ・ 岡山副校長兼事務長から、学校関係者評価について説明。

イ 質疑・意見等（要旨）

- ・ 葉久委員

実習施設との調整会議では、互いに遠慮の無い意見交換ができていいのか。

- ・ 藍原副校長

調整会議では他校と実習の日程調整のみ行っている。調整会議とは別に、学校ごとに学生のレディネスについての説明会や、施設別の実習指導者会を開催している。実習終了後に病棟ごとの指導者と課題について話し合った上で、実習指導

者会に報告をしており、意見交換ができる会があることは有りがたいと思っている。

- ・岡山副校長兼事務長

忙しい中で学生を受け入れて、精一杯指導をしていただいているので、正直なところ全く遠慮が無いというわけではない。些細なことは別として、学校側の希望があれば担当の方にお伝えしている。十分対応していただいていると考えている。

- ・三宅委員

前回の委員会でも同じ意見が出て、すぐ看護部に指示をした。看護部には遠慮なくストレートに伝えてもらいたい。言ってもらえなければ現場は分からない。分からなければ改善できない。

- ・藍原副校長

第二看護学科の主な実習先は市民病院だが、看護部には、言いやすい環境作りや学生への声かけなど、非常に配慮していただき感謝している。

- ・頭師委員長

前回の委員会後、実習に関する学生アンケートについて、可能な部分のフィードバックを始めている。今後も連携を密に、厳しくも温かいご指導をよろしくお願いしたい。

ウ 採決

令和6年度学校関係者評価報告書（案）については、全会一致で原案どおり承認された。

6 次回開催

- ・岡山副校長兼事務長

次回は8月から9月頃に開催を予定している。

以上